

第45回ふくしねぶた出陣!!

「障がい者の完全参加と平等をめざして」をテーマに、ヤマト運輸ねぶた実行委員会の全面的なご協力のもと、青森市内外の障がい児・者の皆さんと、ボランティアの皆さん合わせて352名がねぶたまつりを堪能しました!

参加者からは「毎年、ねぶたへ参加するのを楽しみにしています。熱中症に気を付けて楽しみます!」という声やボランティアに初めて参加した学生さんは「以前からふくしねぶたに興味があり参加しました。大学以外の人も関われることも魅力だなと思ひ参加しました」というお話がありました。運行終了間際まで、大きな声で「ラッセー、ラッセー!」とねぶたを盛り上げ、大きな事故もなく終えることができました。ヤマト運輸ねぶた実行委員会は、北村 隆氏制作「鬼童丸」で「知事賞」と「運行・跳人賞」を受賞されました!おめでとうございます。皆さまのご参加、ご協力誠にありがとうございました。

■総参加者数 352名

<内訳>

・障がい者	78名(13団体.8個人)
・ボランティア	99名(15団体.8個人)
・その他	175名(保護者.引率職員)

予告!! ヤマト運輸ねぶた実行委員会、市社協コラボ企画
あなたの作品がうちねになる!? 詳細は、後日、お知らせいたします。



テーマが書かれた横断幕



出発式 発声
青森市手をつなぐ育成会



ねぶた運行中のようす



知事賞受賞ねぶた 北村 隆氏制作 「鬼童丸」

寄贈

株式会社大一通商様より
寄付をいただきました

子ども食堂等に役立ててほしいということで、寄付をいただきました。心温まる善意に感謝いたします。



ピップ株式会社様より
寄贈をいただきました

平成17年からご寄贈いただいている車いす。今年で38台となり、青森市内の様々な場所で有効的に活用させていただきます。ありがとうございます。



体験ボランティア お知らせ

ボランティアに参加してみよう!

「社会の役に立ちたい」「視界を広げたい」「ボランティア活動に興味はあるけど、どうしたらいいの?」などお考えの方! まずは、ボランティア登録をしてみませんか?

「ボランティア」に関する情報、ボランティア活動者登録・ボランティア活動申込みは、ホームページで出来ます!

<https://www.aomoricity-shakyo.or.jp/volunteer>

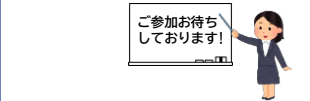
毎年、青森市社会福祉協議会で実施をしている「民間福祉施設職員研修会並びに体験ボランティア説明会」を11月下旬ごろに予定しております。現在、研修内容について調整を行っておりますので、日程・開催内容等の詳細が決まりましたら、ご案内いたします。

青森市ボランティアセンター 検索

「青森市ボランティアセンター」ホームページはこちらの二次元コードからGO!!

ボランティアセンターHP

パソコン操作の苦手な方は、ボランティアセンター窓口で登録・申込みが出来ますので、お気軽にお問合せください。



ボランティアセンター NEWS 2025 秋号

編集/発行
社会福祉法人 青森市社会福祉協議会
青森市本町4-1-3
TEL (017) 723-1340
FAX (017) 777-0458



「うた声ひろば」協力員の皆さん

一緒に活動しませんか?

ポイント対象となる地域福祉活動に参加することでポイントが付与され、貯まったポイントは商品券、又はAOPASSポイント引換券に交換が出来ます。この事業は、ボランティア活動を行ったことがない方々はボランティア参加のきっかけとして、既に活動をしている方には、より張り合いを持つていただけるように、また高齢者の方々に対しては、参加活動を通じた介護予防を目的として実施しています。

うた声ひろばで元気に交流!

小柳地区社協やき町会では、毎月1回開催されている「この縁側づくり事業」うた声ひろばを地域福祉サポーターの方々が中心となり、実施しています。何った日は懐かしの歌、季節の歌など約15曲を1時間



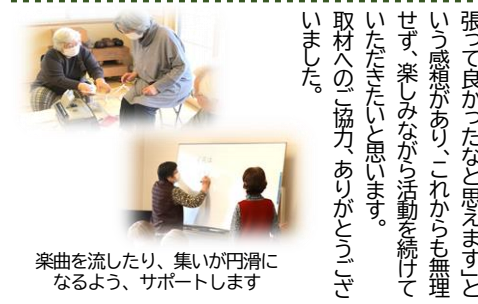
懐かしソングを参加者みなで

ほと歌い、歌声が響くひとときは、自然と笑顔があふれ、会話も弾む楽しい時間となっていました。

サポーターは、曲の選曲や歌詞カードの準備、受付、会場づくり、お茶やお菓子配り、参加者とのおしゃべりにより、みなさんが安心して楽しめるよう工夫していました。

「うた声ひろば」は、歌を通じて交流ができるあたたかな集いで、協力されているサポーターの皆さんも、いきいきと活動していました。

「サポーター活動は、人のために



楽曲を流したり、集いが円滑になるよう、サポートします

なるだけでなく、やりがいのある活動によって充実感を得られます。無理せず、続けていききたいですねというサポーターの声や、ポイントを貯めるためにしている活動ではないけど、年に一度のポイント交換があると、頑張った自分へのご褒美のようで、頑張った良かったなと思えます」という感想があり、これからも無理せず、楽しみながら活動を続けていきたいと思います。

取材への協力、ありがとうございました。

体験ボランティアは皆様のご協賛により運営されています
企業の皆様、ありがとうございます

Procrea

青森みちのく銀行

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

建設機械のリースと運搬

(有) 三本木貨物運送

〒030-0131 青森市間屋町2丁目4-21
TEL (017) 738-1121 FAX (017) 738-3282

大青工業株式会社

〒030-0131 青森市間屋町1丁目9-30
TEL: 017-738-2131 FAX: 017-738-9333

ボランティア推進校として、活動をしている2校を紹介! 両校とも、自分たちに何ができるか生徒たち自ら意見を出し合い、積極的にボランティア活動を実施し、活動の中で地域福祉への関心を高めています。

「青森市立油川中学校」



あもり桜マラソン

「あもり桜マラソン」では、給水所でランナーへ声援を送りながらサポートしました。



油川幼稚園 運動会

油川幼稚園の運動会へボランティアとして参加し、競技のお手伝い等を行いました。



ふるさと海岸清掃活動

毎年恒例のふるさと海岸の清掃活動みんなで協力し、海岸をきれいにしました。

「青森市立浦町中学校」



緑の募金活動

自分たちで募金の意義を考え、ポスターで伝えて学校、街頭で募金活動をしました。



浦中夏の遊び場

浦町中学校で子どもが楽しめる遊び場を作り、地域の子とも達と交流しました。



ポスターは、生徒が各自で作成、学区内で活動の紹介をしました。

ボランティアセンター出前講座

活動レポート

実施日: 令和7年7月16日 青森県警察学校 様

高齢者、障がい者のサポート体験として、青森県警察学校で車いす体験、高齢者、視覚障がい者、片マヒの疑似体験を実施しました。サポートされる側、する側になり相手の立場になって考えていただきました。体験を終えた生徒からは「視覚障がい者体験では、真っ暗で周りが見えず不安だったが、サポートしてくれる人の声で安心でき、声掛けは大事なんだと実感しました。サポートが必要な人が周りにいた際は、優しく声掛けをしたいと思います」とお話があり、今回の体験を通して気付いたことを今後、活かしていただけたらと思います。



～被災地支援に行く前に～

災害ボランティアについて

近年、気候変動などの影響により、日本では自然災害が頻発し、大雨による土砂災害や河川の氾濫が増加しております。そのような中で、被災地で様々な活動を担う「災害ボランティア」は、被災地の復旧・復興に大きな役割を果たしています。「被災地でボランティアしたいけど、どうしたらいいの?」という方! ぜひ、ご参考になしてください。

災害ボランティアの心構え



全社協被災地支援ボランティア情報

1. 被災地の災害ボランティア活動について最新情報の確認

災害が発生しても、現地のボランティア受け入れ体制が整っていない場合があります。また、災害ボランティアの受け入れ範囲を市町村、または都道府県在住者のみと地域を限定し、募集している場合もございますので、希望する被災地の社会福祉協議会等のウェブサイトでも最新情報を確認してください。

2. 被災地に負担をかけない準備をしましょう

災害が発生しても間もない被災地では、物資が少なく調達が難しいことが多く、調達できたとしても被災地の方々に迷惑がかかる場合があります。状況に合わせた服装・持ち物を準備し、「自分のことは自分です」自己完結で被災地へ入りましょう。

3. 活動中の方が一ケガに備えたボランティア活動保険へ加入しましょう

災害ボランティアセンターでは、ボランティア活動保険の加入証明が必要となります。お住まいの地域の社会福祉協議会で、出発前日までに加入手続きを行ってください。お住まいの地域で加入することで自宅から活動場所までの往復の道のりも補償対象となります(大規模災害など特例により当日加入、ウェブ加入が可能な場合があります)。

被災地では、災害直後だけでなく、その後も復興に向けてボランティア活動が行われています。息の長い支援を出来る範囲で続けていきましょう!

小柳地区社会福祉協議会(東部第7区連合町会)において避難訓練及び防災訓練が行われました!

地域の安全を守るため、8月31日(日)に地域住民を対象に、小柳地区社会福祉協議会による防災訓練が実施されました。はじめは、3つのグループに分かれて「起震車による地震体験」「水消火器による消火訓練」「ダンボールバット組立て訓練」を行い、その後、救命救急講習を全体で実施しました。参加された皆さんは、実際に体を動かしながら真剣に取り組み、「もしもの時にどう行動すればいいか」を学ぶ良い機会となりました。また、炊き出し訓練では、温かい豚汁とアルファ米を調理・配布し、非常時の食事を体験しました。今回の訓練を通して、防災は一人ひとりの意識と地域の協力が大切であることを改めて感じました。防災は、日頃の備えが大切です。安心・安全な地域づくりのため、地域全体で自分たちの地域は自分たちで守れるよう、近隣お互い顔見知りとなり、力を合わせて今回の訓練を役立てていただければと思います。



小柳地区社会福祉協議会 赤木 会長



起震車による地震体験



歩いて小柳小学校まで避難



ダンボールバット組立て